
あなたに、おくる、ことば

把 多摩子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたに、おくる、ことば

【Nコード】

N1503U

【作者名】

把 多摩子

【あらすじ】

ワイルドハープと結婚にまつわる、ほんわかした話になっています。

過去作品からの転載です。

ワイルドストロベリー。

……というハーブをご存知ですか？

バラ科フラゴリア属。

和名・エゾヘビイチゴ。

別名・野苺。

のいちご、皆さんご存知かと思います。

このハーブには、素敵な伝説がありました。

現在六月、丁度良いお話です。

「これね、これ」

「あー、この一番左のやつ」

「うん。お花、苺でしょ」

「ホントだ、でも、もう苺の季節終わったじゃん」

「ワイルドストロベリーはね、普通の苺と季節が違ってね、今から花が咲いて、実になるんだよ」

「へー」

与えるお水は、毎日のお米のとき汁。

エコにもなるし、栄養もあるから必ず御釜を抱えてベランダへ行くのが日課だ。

それだけでは暑い季節、勿論足りないのです、あとは水道水。

ワイルドストロベリーだけで育成せずに、他の四種のハーブと育てている。

わさわさ、と初夏の太陽の光を浴びたハーブ達は急成長。

葉っぱをそっとかきわけて覗き込むと、可憐な白い花が四つ、咲いている。

他にも蕾があるから、もっと多くの花が咲くのだろう。

とても楽しみだ。

彼氏と水を与えつつ、じーっと、花を見た。

「これねえ、不思議な話があるんだよー」

「苺の話？」

「そだよー。なんかね、ワイルドストロベリーの苗を購入して育て始めた人がね、一年でスピード結婚したんだって。それで、その育成してたワイルドストロベリーをね、たくさん増えたから、式に来た友達に何気なく配ったのね」

「うん」

「そしたらね、貰って育て始めた人達もね、次々と結婚していったんだって！」

「へえー、結婚の花？」

「……っていう伝説がある、不思議なハーブなのだ」

部屋の右上に、今年もツバメが巣を作った。

去年、雛がベランダに落ちてきたから、今年は落ちてこないように毎日心配で覗いている。

雛達の鳴き声が、今日も元気に聴こえている。

そういえば、ツバメも幸運を運んでくれる鳥だ。

私は思わず、笑った。

私のこのワイルドストロベリーは、実を生らせるだろうか。

これだけ元気に育っているから、きっと数ヶ月もすれば可愛い実を生らすのだろう。

たくさん実ったら、ジャムにしてみよう。

今から、作り方を把握しておかないといけない。

葉っぱも、たくさん乾燥させてハーブティにしよう。

香ばしくて美味しいから、たくさん作って常備茶にするのだ。

自分で育てたハーブで作ると、また味も格別。

「日曜日、晴れるかなあ」

現在、天気は超ご機嫌、晴天。

初夏を通り越して、真夏日じゃないかー、と突っ込みたくなるくらい、暑さ。

日曜日、苺狩りに出掛けるので、天気が不安だったり。

ハウスなので、雨は気にしなくても良いけれど、どうせなら、晴れの方が気分が良い。

終わりがけの、苺狩り。

もう、残りも少ないし甘くないかもしれないけれど。

苺繋がりなのか、じつは苺にも不思議な伝説があったりするのだ。

この地区だけかもしれないけれど！

地区というか、私の身の回りだけかもしれないけれど。

苺狩りに彼氏と出掛けた私の友達は、その年にみんな結婚しているのだ。

全員が、全員。

無論、苺狩りに行っていないなくても結婚している友達もいる。

けれど、苺狩りに行って結婚した友達は、皆、幸せな家庭を築いているのだ。

これって……凄い事だと思う。

苺の、あの可愛らしい姿。

二人で摘んで、二人で食べれば。

幸せな気分になれるから、かな。

ともかく、そんなわけで私は、カレンダーを何気なく見る。

苺狩り、の文字。

初めて行く、彼氏との苺狩り。

苺狩りなら、家族で行ったし友達とも行っただし。

けれど、そういえば彼氏で行ったことが、過去にもなかったりする。

「結婚、出来るかな」

ぼそ、っと私は呟いた。

「出来るだろ、別に苺狩り行かなくても」

と、あなたが呟いた。

私は。

隣でカレンダーを見ていたあなたの手を取って、ぎゅっと、握ったのだ。

ベランダの、ワイルドハーブに願いを籠めて。

日曜日の、苺狩りに祈りを籠めて。

大事な大事な、世界でたった一人のあなたと。

「これから一緒に居られますように」

可愛い、可愛い、苺に願いを、祈りを。

「……さて、ワイルドストロベリーティーでも飲みますか！ 自家製の」

私は、あなたに、笑った。

苺を、育てよう。

ベランダでも、お庭でも、苺を育てよう。

たくさん、たくさん、育てよう。

私と、あなたと、家族と一緒に。

緑の葉は、優しさを。

赤の実は、情熱を。

白の花は、安らぎを。

「届け、届け、私の想音。」

目を閉じれば、苺を育てている、私が見えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1503u/>

あなたに、おくる、ことば

2011年10月9日06時17分発行